



ありあけ

2021(令和3)年
7月1日(木)

共感的コミュニケーション(NVC)

校長 前嶋 正秀

本校では、教育活動のあらゆる場面で、「対話」をととても大切にしています。これは生徒同士、生徒と教員、教員同士、話す相手が誰であっても、共通して大事にしていきたいと思っています。

生徒の皆さんには始業式の日にも似たような話をしましたので、これは繰り返しになりますが、「対話」には当たり前ですが「自分が話す」という行為と「相手の話を聞く」という行為があります。まず前者は、「言葉にしてみる」ことで、自分が物事に対して、「あっ、自分ってこういうことを考えていたんだ、こういうことを大切にしていたんだ」ということがわかる、つまり言語化することで自分の考えが明確になってくる、改めて自分の考えに気づくという利点があります。後者は、「人の話を聞く」ことで、それまで自分が気づいていなかったことや理解していなかったことを知る利点、自分と同じように相手にも、その人が大切にしているものやその人なりの価値観があるのだということを知る利点があります。生徒の皆さんには、このような「対話」を重ねていくことで、相手の考え方や価値観を尊重しようとする気持ちが少しずつ芽生えてくるようになってほしいと思っています。

実はこのような「気づき」そのものが、一つの大きな「学び」です。本校が「対話」を大切にしているのは、「対話」という行為を重ねることによって、自分の考えを明確に持つことができ、さらに自分の考えを自分の言葉で人に伝えることができるようになるからです。これは、本校の教育理念にある「主体的に行動できる人間へと成長できる基盤」に他なりません。

さてここで「相手の話を聞く」についてももう少し触れたいと思います。

「相手の話を聞く」と言っても、良好な関係性を築けるようにする「対話」では、「聞く」側のあり方が問われます。「聞く」側の人は、話自体はちゃんと聞いてはいても、得てして(無意識に、ですが)、自分のこれまでの経験から培ってきたものや、価値観というか、そういう自分が大切にしているもの、の枠組みの中で話を聞く、ということがあります。だからこそ、その人の話に違和感を感じたり、「それ、違うんじゃない?」と思ったりすることがあるのですが、この枠組みを一旦脇に置いて、たとえそのような違和感を感じたとしてもそれを「保留」して、相手の話を否定せずに、ただ聞く、ひたすら共感的に受け止める、という態度が求められます。ただ実際には、このような態度で「対話」に臨むことは言わば「言うは易く行うは難し」であり、一朝一夕に培われるわけではありません。ですから私たちは学校生活のさまざまな場面で、日常的・継続的にこのような取り組みをできる限り多く続けていきます。そうすることで、このような態度が少しずつ養われていくことを期待しています。私たちはこのようなコミュニケーションの取り方を「共感的コミュニケーション(Non Violent Communication、略してNVC)」と呼んでいます。

この「NVC」を日々の学校生活の中で重ねることによって、「話す」側の人は、自分が思っていることを心を開いて率直に話せるようになります。「話す」人にとってはそこが安心安全の場になる、というわけです。そしてこのことが(先ほどの話と重複しますが)生徒の主体性を育み、ひいては「豊かな人生を送る」ための礎になると考えています。

6月のご報告

本校ホームページ「最新情報」ページをご覧ください。 <https://www.ariake.kaetsu.ac.jp/#page2>

【国際部】6/19(土)海外大学進学説明会を開催しました! など…

*今後の予定については、急な変更の可能性もありますので、学校からのメール連絡をよくご確認ください。

次回は8/1(日)発行予定です。(広報部)

